

教科	国語	科目	論理国語	学年	2年(普通科)	単位数	2
教材	教科書	新編 論理国語			出版社名	大修館書店	
	副教材	常用漢字クリア(尚文出版)					

学習の目標	1 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けます。 2 論理的、批判的に考える力を伸ばし、創造的に考える力を養い、自分の思いや考えを深めます。 3 言葉を通して積極的に他者や社会に関わろうとする態度を養います。
-------	---

	教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1学期	4月 第I部：論理を培う 1 論理と出会う 知の登山、知の水路	○ 叙述を基に筆者の主張を的確に捉えて、「学ぶ」ということについて自分の考えを深めます。	中間考查 期末考查
	5月 2 具体と抽象 ウサギの耳はなぜ長い? 記号的メディアと物理的メディア	○ 具体例の役割を意識して読み、論理の展開を的確に捉えます。 ○ 具体と抽象の関係について理解を深め、筆者の主張を読み取ります。	
	6月 3 対比をとらえる 対話の精神	○ 対比の役割を意識して本文を読み、対比の効果について理解を深めます。	
	7月 デジタル地図から見える世界	○ 対比の関係に着目して論理の展開を捉えて、文章の要旨を的確に読み取ります。	
2学期	8月 4 主張をつかむ 人工の自然 「考える葦」であり続ける	○ 主張と根拠の関係を意識して本文を読み、論理の展開を捉えます。 ○ 筆者の主張を支える根拠に着目して本文を捉え、要旨を把握します。	中間考查 期末考查
	9月 要約の方法	○ 文章のキーワードや、主張と根拠の関係を的確に捉えて要約します。	
	10月 5 論理的に書く—小論文① 根拠をふまえて主張を書こう 構成を考えて書こう	○ 根拠を明示しながら主張を述べ、論理的な文章を書きます。 ○ 基本的な小論文の型を理解し、説得力のある文章を書く練習をします。	
	11月 6 統計資料を活用する 量の時代から質の時代へ	○ 統計資料と筆者の主張の関係を的確に捉えて、文章の要旨を読み取ります。	
12月 若者の「海外旅行離れ」は本当か?	○ 文章と統計資料の関係を的確に読み取り、データのまとめ方によって主張が変わることを理解します。	期末考查	
3学期	1月 7 比べて読む 「言葉の揺れ」を認めるか	○ 二つの意見の相違点と共通点を整理し、自分の意見を文章にまとめます。 ○ 論理の展開を意識して文章を読み取り、筆者の主張を的確に捉えます。	学年末考查
	2月 紙の本はなくならない 情報化と紙の本のゆくえ	○ 異なる立場の文章を比べて読み、自分の考えを深めます。	
	3月 8 レポートを書く	○ 読者を意識し、構成や記述に配慮しながら、読みやすくわかりやすいレポートを書きます。	

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度が身に付いている。

評価の方法	定期考查の得点と授業時の活動や発言、提出課題、小テスト等を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。
学習へのアドバイス	1 予習をしっかりとしましょう。配布されたプリントは、家庭で自分の力で解きましょう。 2 忘れ物をせず、授業に集中しましょう。忘れ物をすると意欲と理解力が低下します。 3 考查前には、配布されたプリントを見直すなどして必ず復習をしましょう。

教科	国語	科目	文学国語	学年	2年(普通科 探究類型 文系、教養類型、情報・ビジネス類型)	単位数	2
教材	教科書	高等学校	標準文学国語	出版社名	第一学習社		
	副教材	特になし					

学習の目標	1 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、我が国の言語文化に対する理解を深めます。 2 伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする力を伸ばします。 3 言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養います。
-------	--

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画	
1 学期	4月	第I部 現代の小説(一)	○ 登場人物の心理変化を様々な出来事の過程を通して読み取ります。	中間 考查	
	5月		○ 作品の解釈を踏まえて、ものの見方や感じ方、考え方を深めます。		
	6月	現代の詩	○ 詩の構成や比喻に着目して読み、自分と他者との関係性について考えます。 ○ 繰り返し音読し、詩の構成やリズムを理解します。		期末 考查
	7月	随想	○ 日本の伝統文化を論じた文章に触れ、抽象的内容の説明の仕方を理解します。		
2 学期	8月	現代の小説(二)	○ 場面の移り変わりや登場人物の発言を粘り強く読み取ります。	中間 考查	
	9月		○ 作品に関連のある事項について調べ、その成果を文章にまとめます。		
	10月	随想	○ 絵画を紹介する文章を読んで、読み手の関心を引きつけるための工夫について考えます。		
	11月	近代の小説(一)	○ 物語の展開と出来事を整理しながら、登場人物それぞれの心情をつかみます。		
	12月		○ 『鼻』の典拠となった『今昔物語集』の説話と読み比べ、作者の工夫をまとめます。	期末 考查	
3 学期	1月	戦争と文学(一)	○ 時系列に沿って登場人物間の関係や心情を粘り強く読み取り、その背景を理解します。	学年 末 考 査	
	2月		○ 象徴的な表現を読み取り、進んで表現上の効果や作品世界、そこに込められた心情を理解します。		
	3月				

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしており、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。

評価の方法	定期考查の得点と授業時の活動や発言、提出課題、小テスト等を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。
学習へのアドバイス	1 予習をしっかりとしましょう。配布されたプリントは、家庭で自分の力で解きましょう。 2 忘れ物をせず、授業に集中しましょう。忘れ物をすると意欲と理解力が低下します。 3 考查前には、配布されたプリントを見直すなどして必ず復習をしましょう。

教科	国語	科目	古典探究	学年	2年(普通科 探究類型、教養類型)	単位数	2
教材	教科書	新編古典探究			出版社名	東京書籍	
	副教材	ダブルマスター古典文法+漢文句形					

学習の目標	1	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、伝統的な言語文化に対する理解を深めます。
	2	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばします。
	3	言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養います。

	教材内容(単元)	学習計画・内容	考査計画
1学期	4月 古文編Ⅰ部 1 説話に親しむ 漢文編Ⅰ部	○ 和歌を含んだ説話を読み取り、展開の面白さを捉えます。 ○ 漢文の読み方を確認し、平易な文章の内容を的確に読み取ります。	中間考査
	5月 1 故事と小話		
	6月 古文編Ⅰ部 2 随筆を読む		
2学期	7月 漢文編Ⅰ部 2 唐詩と文	○ 随筆に表れている作者のものの見方、感じ方、考え方を読み取ります。 ○ 語句の意味や修辞に注意して内容を読み取り、ものの見方や感じ方を広げます。 ○ 作り物語の内容を叙述に即して読み取って、そこに表れた人々の思いを捉えます。 ○ 語句の意味や修辞に注意し、叙述に即して、登場人物の行動や心情を的確に読み取ります。 ○ 他の作品との関係も踏まえながら日記を読み、作者の心情を的確に捉えます。 ○ 和歌を多面的・多角的な視点から評価することを通して、言語文化についての考えを深めます。	期末考査
	8月 古文編Ⅰ部 3 作り物語を読む		
	9月 漢文編Ⅰ部 3 史記を読む		
	10月		
	11月 古文編Ⅰ部 5 日記を読む		
3学期	12月 古文編Ⅰ部 4 和歌の世界	○ 古代中国の様々な考え方に触れ、寓話や故事成語の意味について理解を深めます。 ○ 朗読などを通して、内容の解釈を深めたり、表現の特色について理解を深めたりします。 ○ 登場人物の行動や心情を捉え、人間の生き方について理解を深めます。	学年末考査
	1月 漢文編Ⅰ部 4 中国の知恵		
	2月 古文編Ⅰ部 6 軍記物語を味わう		
3月 漢文編Ⅰ部 5 三国志の世界			

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

評価の方法	定期考査の得点と授業時の活動や発言、提出課題、小テスト等を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。
学習へのアドバイス	1 予習をしっかりとしましょう。配布されたプリントは、家庭で自分の力で解きましょう。 2 忘れ物をせず、授業に集中しましょう。忘れ物をすると意欲と理解力が低下します。 3 考査前には、配布されたプリントを見直すなどして必ず復習をしましょう。

教科	地理歴史	科目	地理総合	学年	2年(普通科 教養類型、探究類型)	単位数	2
教材	教科書	高校生の地理総合			出版社名	帝国書院	
	副教材	準拠ノート(帝国書院)					

学習の目標	1 様々な地図から現代世界の姿を読み取る技能や、地図等を利用する技能を身に付けます。 2 地球的課題が互いに関係合っていることを理解し、持続可能な取組について考えます。 3 人々が生活していくうえで必要な防災・減災に向けた備えについて、主体的に追究します。
-------	--

	教材内容(単元)	学習計画・内容	考査計画
1学期	4月 第1部 1章 地図や地理情報システムと現代世界 1節 地球儀と地図	○ 地球儀や様々な地図から地図や地理情報システムの役割や有用性を理解します。	中間考査
	5月 2節 地図と地理情報システム 2章 結びつきを深める現代世界 1節 現代世界の国家と領域	○ 領土問題、世界の国々の結びつきについて地図を通して多面的・多角的に考察し表現します。	
	6月 2節 地図から見る国内や国家間の結びつき 第2部 1章 生活文化の多様性と国際理解	○ 世界の生活文化の多様性の背景や世界の生活文化の相互関係を見いだすための地理的見方・考え方を身に付けます。	
2学期	7月 1節 世界の地形と人々の生活 2節 世界の気候と人々の生活		期末考査
	8月 3節 世界の産業と人々の生活 4節 世界の宗教・民族・言語と人々の生活	○ 世界の生活文化の多様性がどのように形成されてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現します。	
	9月 5節 多様な生活文化と地理的環境 ・東アジア ～ アフリカ ・ヨーロッパ ～ アメリカ ・オセアニア	○ 世界の多様な生活文化を尊重し、共生を図っていくことについて、主体的に追究し、課題を見いだします。	
	10月 2章 地球的課題と国際協力 序説 複雑に絡み合う地球的課題 2節 食料問題	○ 世界を構成する国家の領域の定め方や、地図を通して世界の国々の結びつき方、交通、通信、人の移動の特徴を理解します。	
	11月 3節 都市・居住問題 4節 感染症・衛生問題 5節 資源・エネルギー問題		
	12月 6節 地球環境問題		
3学期	1月 3部 1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境	○ 生活圏の調査にあたって、仮説の立て方や調査結果の検証の方法、発表のしかたを理解します。	学年末考査
	2月 2節 地震・津波や火山活動による災害と防災 3節 気象災害と防災		
	3月 4節 自然災害への備え 2章 生活圏の調査と地域の展望	○ よりよい社会を築いていくために必要なことを主体的に追究していきます。	

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したりしている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

評価の方法	定期考査の得点と授業時の活動や発言、課題レポート、授業ノート、単元ごとのまとめなどの提出物を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。
学習へのアドバイス	1 主体的に教科書を読むなど、授業の中で分からないことを解消させていきましょう。 2 小テストや定期考査に備えて、計画的に学習に取り組みましょう。 3 提出物は期限を守って必ず提出するようにしましょう。

教科	地理歴史	科目	日本史探究	学年	2年(普通科 探究類型 文系)	単位数	2
教材	教科書	詳説 日本史			出版社名	山川出版社	
	副教材	最新日本史図表(第一学習社)					

学習の目標	1	広い視野に立ち、国際社会の中で主体的に生きるために必要な資質と能力を深めます。
	2	民主的な国家及び社会の形成者として、多面的に考察したり説明したりする力を養います。
	3	よりよい社会の実現に向けて、歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を主体的に解決する力を深めます。

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1学期	4月	第Ⅰ部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの	○ 人類文化の発生を考え、東アジア世界と関連して、日本列島の旧石器文化、縄文文化、弥生文化を学びます。	中間考查 期末考查
	5月	第2章 古墳とヤマト政権	○ 地域の首長の出現から統一国家に至る過程とその変容、大陸の文化の摂取による飛鳥文化を学びます。	
	6月	第3章 律令国家の形成	○ 律令国家が成立する過程と律令国家の完成について、大陸の影響を受けた文化を意識しながら学びます。	
	7月	第4章 貴族政治の展開	○ 古代の税制度について考えます。 ○ 藤原氏の栄華と大陸文化を昇華した日本独自の文化について学びます。	
2学期	8月		○ 律令体制の崩壊について、諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に取り組みます。	中間考查 期末考查
	9月	第Ⅱ部 中世		
	10月	第5章 院政と武士の躍進	○ 平安末期の政権を学習することで、古代から中世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現します。 ○ 資料から適切に読み取った情報をもとに、中世の特色について考えます。	
	11月	第6章 武家政権の成立	○ 鎌倉幕府の成立から承久の乱を経て武家支配が強固される過程を学び、それぞれの根拠を考えます。	
	12月		○ モンゴル襲来の影響がどのように政治や経済、文化に及んだのか学ぶとともに、鎌倉時代の意義を考えます。	期末考查
3学期	1月	第7章 武家政権の成長	○ 南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定、東アジアとの交流が日本にもたらした影響について考えます。	学年末考查
	2月		○ 現在の日本文化の原型といえる室町文化を理解し、日本人としての自覚を促し、主体性を深めます。	
	3月	第Ⅲ部 近世 第8章 近世の幕開け	○ 新興の大名や絢爛豪華な桃山文化について学び、中世から近世への変化について考えます。	

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
評価の方法	定期考查の得点と授業時の活動、課題レポート、授業ノート、単元ごとのまとめなどの提出物を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。		
学習へのアドバイス	1 事前に教科書を読んでから授業に臨むなど、授業に主体的に取り組ましましょう。 2 歴史上の人物が主人公の小説、映画などを意欲的に視聴し、歴史に興味を持ちましょう。 3 提出物は期限を守って必ず提出するようにしましょう。		

教科	公民	科目	公共	学年	2年(普通科、園芸クリエイト科)	単位数	2
教材	教科書	高等学校 新公共			出版社名	第一学習社	
	副教材	最新公共資料集2023(第一学習社)、2023公共ワークブック(高教研)					

学習の目標	1	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論の理解を深めます。
	2	事実を基に多面的・多角的に考察し、判断する力や構想したことを議論する力を育てます。
	3	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を育てます。

	教材内容(単元)	学習計画・内容	考査計画
1学期	4月 第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち	○ 社会に参画する自立した主体とは、様々な集団の一員として生き、他者との協働により公共的な空間を作る存在であることを理解します。 ○ 先人の取り組みや知恵などを踏まえ、社会に参画する際の手掛かりとなる概念を理解します。	中間考査 期末考査
	5月 第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方		
	6月 第3章 公共的な空間における基本的原理		
	7月 第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち 第1章 法的な主体となる私たち	○ 法に基づいて各人の利害を調整することなどを通して、権利が自由が保障され、社会秩序が維持されていくことを理解します。	
2学期	8月	○ よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることを理解します。 ○ 公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られることや、活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることを理解します。	中間考査 期末考査
	9月		
	10月 第2章 政治的な主体となる私たち		
	11月	12月 第3章 経済的な主体となる私たち	
3学期	1月	○ 持続可能な地域や国家づくりに向けた役割を担う自立した主体となることに向けて、現代の諸課題を探究する活動を行います。	学年末考査
	2月		
	3月 第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち		

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れたりしながら構想したことを議論したりしている。	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

評価の方法	定期考査の得点と授業時の活動、課題レポート、授業ノート、単元ごとのまとめなどの提出物を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。
-------	--

学習へのアドバイス	1 授業の前に、教科書の予習(通読)をしましょう。 2 授業中の説明に集中し、分からないこと、疑問点は質問しましょう。 3 新聞やニュースなどで、時事問題に興味・関心を持ちましょう。
-----------	---

教科	数学	科目	数学Ⅱ	学年	2年(普通科 探究類型 文系)	単位数	2
教材	教科書	新編 数学Ⅱ			出版社名	数研出版	
	副教材	基本と演習テーマ 数学Ⅱ+B 改訂版(数研出版)					

学習の目標	1 整式、複素数、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数についての理解を深めます。 2 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を身に付けます。 3 数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を養います。
-------	--

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1 学期	4月	第1章 式と証明 第1節 式と計算	○式の展開、二項定理、整式の割り算、分 数式、恒等式について学習します。 ○等式や不等式を証明するための論証の方 法を学習します。 ○虚数を導入することで数の範囲を複素数 まで拡張し、2次方程式の解について学 習します。	中間 考 査
	5月	第2節 等式・不等式の証明		
	6月	第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解		
2 学期	7月	第2節 高次方程式	○剰余の定理、因数定理を用いて、割り算 における余りや高次方程式の解法につい て学習します。 ○数直線や座標平面における距離や内分点 ・外分点及び直線の方程式や2直線の関 係を学習します。 ○円の方程式を通して、直線との関係や2 つの円の関係について学習します。	中間 考 査
	8月	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線		
	9月	第2節 円		
	10月	第3節 軌跡と領域		
3 学期	11月		○条件を満たす図形や不等式で表される領 域について学習します。	期 末 考 査
	12月			
	1月			
	2月			学 年 末 考 査
	3月			

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力を身に付けている。
評価の方法	定期考查の得点や授業態度、活動状況・課題・小テスト・プリントやノート等の提出物などを各学期で観点別に評価します。それらの評価を用いて学年末の成績とします。		
学習へのアドバイス	1 学習内容全般において、数学の基本的な知識の習得と技能の習熟を図りましょう。 2 問題解決等を通して、物事を筋道立てて考えたり、具体的な手順などを考えてみましょう。 3 指示された範囲の予習をきちんとし、問題意識をもって授業に臨みましょう。		

教科	数学	科目	数学Ⅱ	学年	2年(普通科 探究類型 理系)	単位数	4
教材	教科書	新編 数学Ⅱ			出版社名	数研出版	
	副教材	基本と演習テーマ 数学Ⅱ+B (数研出版)					

学習の目標	1 いろいろな式、図形と方程式、様々な関数及び微分・積分の考えについての理解を深めます。 2 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を身に付けます。 3 数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を養います。
-------	---

	教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1 学期	4月 第1章 式と証明 第1節 式と計算	○多項式の乗法・除法及び分数式の四則計算について学習します。	中間 考 査
	5月 第2節 等式・不等式の証明	○数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式の証明を学習します。	
	6月 第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解	○数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことができるようにします。	
	7月 第2節 高次方程式	○剰余の定理や因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにします。	
2 学期	8月 第3章 図形と方程式 第1節 点と直線	○直線の性質や関係を数学的に表現し、事象の考察に活用できるようにします。	期 末 考 査
	8月 第2節 円	○円の性質や関係を数学的に表現し、事象の考察に活用できるようにします。	
	9月 第3節 軌跡と領域	○条件を満たす図形や領域を理解し、事象の考察に活用できるようにします。	
	10月 第4章 三角関数 第1節 三角関数	○三角関数に関する様々な性質について多面的に考察できるようにします。	
	10月 第2節 加法定理	○三角関数の加法定理について理解し、事象の考察に活用できるようにします。	
	11月 第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数	○指数関数について理解し、事象の考察に活用できるようにします。	
12月 第2節 対数関数	○対数関数について理解し、事象の考察に活用できるようにします。	期 末 考 査	
3 学期	1月 第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数	○微分係数や導関数の意味を理解し、その有用性を認識できるようにします。	学 年 末 考 査
	2月 第2節 関数の値の変化	○導関数の理解を深めるとともに、その有用性を認識できるようにします。	
	3月 第3節 積分法	○積分の考えについて理解し、その有用性を理解するとともに、事象の考察に活用できるようにします。	
	3月		

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数を利用して事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って総合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。
評価の方法	定期考查の得点や授業態度、活動状況・課題・小テスト・プリントやノート等の提出物などを各学期で観点別に評価します。それらの評価を用いて学年末の成績とします。		
学習へのアドバイス	1 学習内容全般において、数学の基本的な知識の習得と技能の習熟を図りましょう。 2 問題解決等を通して、物事を筋道立てて考えたり、具体的な手順などを考えたりしましょう。 3 指示された範囲の予習をきちんとし、問題意識をもって授業に臨みましょう。		

教科	理科	科目	生物基礎	学年	2年(普通科 探究類型 文系)	単位数	2
教材	教科書	高等学校 改訂 生物基礎			出版社名	第一学習社	
	副教材	クリア生物基礎 (第一学習社)、生物基礎実験ノート・問題集 (高教研理科部会生物部門)					

学習の目標	1 日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高めます。 2 目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てます。 3 生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養います。
-------	--

	教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画		
1 学期	4月 第1章 生物の特徴 第1節 生物の多様性と共通性	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生物は多様であることを理解します。 ○ 生物の共通の祖先の特徴を理解します。 ○ 生物が共通に持つ特徴を理解します。 ○ 同化と異化について理解します。 ○ 酵素の特徴について理解します。 ○ 光合成と呼吸について理解します。 ○ 多細胞生物では、一部の細胞が増殖していることを理解します。 ○ タンパク質は、多数のアミノ酸がつながってできていることを理解します。 ○ 遺伝子とゲノムについて理解します。 	中間 考查		
	5月 第2節 細胞とエネルギー				
	6月 第2章 遺伝子とその働き 第1節 遺伝子の本体の構造				
	7月 第2節 遺伝情報の複製と分配 第3節 遺伝情報とタンパク質の合成				
2 学期	8月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 恒常性と体液の種類を理解します。 ○ 血液凝固のしくみを理解します。 ○ 心臓の構造について理解します。 ○ 体液濃度の調整に働く、腎臓と肝臓の働きを理解します。 ○ 自律神経系とホルモンの働きによる体液濃度の調節を理解します。 ○ 自律神経系には交感神経と副交感神経があることを理解します。 ○ 皮膚と粘膜の生体防御を理解します。 ○ 自然免疫と獲得免疫を理解します。 ○ アレルギーと予防接種を理解します。 	中間 考查		
	9月 第3章 生物の体内環境 第1節 体液とその働き				
	10月 第2節 体内環境の維持のしくみ				
	11月				
12月 第3節 生体防御	<ul style="list-style-type: none"> ○ 皮膚と粘膜の生体防御を理解します。 ○ 自然免疫と獲得免疫を理解します。 ○ アレルギーと予防接種を理解します。 	期末 考查			
3 学期			1月 第4章 植生の多様性と分布 第1節 植生と遷移	<ul style="list-style-type: none"> ○ 森林の階層構造について理解します。 ○ 光の強さと光合成速度を理解します。 ○ 植生の移り変わりについて理解します。 ○ バイオームの概念を理解します。 ○ 世界と日本のバイオームを理解します。 ○ 生態系の構成について理解します。 ○ 生物の食物連鎖について理解します。 ○ 炭素と窒素の循環を理解します。 ○ エネルギーの流れを理解します。 	学年 末 考 査
			2月 第2節 バイオームとその分布		
			3月 第5章 生態系とその保全 第1節 生態系 第2節 生態系のバランスと保全		

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	生物や生物現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究している。
評価の方法	定期考查の得点と提出課題、小テストなどを資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。		
学習へのアドバイス	1 授業は集中して臨むこと。また、その日のうちに復習をしましょう。 2 問題集を活用し、知識の定着を行きましょう。 3 定期考查には全力で臨みましょう。		

教科	理科	科目	地学基礎	学年	2年(普通科 探究類型 文系)	単位数	2
教材	教科書	地学基礎			出版社名	実教出版	
	副教材	地学基礎エブリィノート(実教出版)、ビジュアルプラス地学基礎ノート(実教出版)					

学習の目標	1 日常生活や社会との関連を図りながら、地学の基本的な概念や原理・法則を学びます。 2 現代社会に見られる環境問題に対して、地学的に探究する態度と能力を身に付けます。 3 対話的な活動を通して、主体的に課題に取り組み、他者の意見を尊重する態度を養います。
-------	---

	教材内容(単元)	学習計画・内容	考査計画	
1学期	4月 1章 地球の構造と運動 1節 地球の構造 2節 プレートの運動	○ 地球の大きさの測定方法や構造などについて、歴史を踏まえて学びます。 ○ プレート運動に起因する地震や火山などの現象に関して理解を深めます。また、火山岩、堆積岩、深成岩の特徴について学びます。 ○ 地形や地層、化石について観察を行い、地球の歴史を解き明かす方法とその特徴を学びます。また、生物が、地球の変化と密接な関連をもちながら進化してきたことを理解します。	中間考査	
	5月 火成岩・堆積岩・変成岩 3節 地震と火山			
	6月 4章 古生物の変遷と地球環境の変化 1節 地層のつき方 2節 化石と地質時代の区分			期末考査
	7月 3節 古生物の変遷と地球環境			
2学期	8月 2章 大気と海洋 1節 大気と運動 2節 大気の大循環	○ 大気と海洋の構造や地球を巡る大気の運動を知り、気象現象がどのようなメカニズムで起こるのかを学びます。 ○ 海洋について関心をもち、海洋の特徴を学んだ上で、海洋と大気の関係について理解します。 ○ 太陽に関する知識を身に付け、星の構造や進化について理解します。 ○ 銀河系の構造や近隣の銀河との関係を学ぶことを通して宇宙の誕生からの移り変わりを理解します。 ○ 地球や惑星の特徴を理解することを通して太陽系の構成について学びます。	中間考査 期末考査	
	9月 3節 海洋の構造と海水の運動 4節 日本の四季の気象と気候			
	10月 3章 宇宙、太陽系と地球の誕生 2節 太陽の誕生			
	11月 1節 宇宙の誕生			
	12月 3節 惑星の誕生と地球の成長			
3学期	1月 5章 地球の環境 1節 日本の自然環境	○ 日本列島の地形の特徴を把握し、日本で見られる自然環境がもたらす災害と恩恵について理解します。 ○ エルニーニョ現象、オゾン層の破壊がもたらす影響など、地球規模で発生している環境問題について学びます。 ○ 地球規模の気候変動と異常気象を把握し、これらの現象が人間活動と密接に関連していることを理解します。	学年末考査	
	2月 2節 地球環境の科学			
	3月			

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	地球や地球を取り巻く環境から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

評価の方法	定期考査の得点と提出課題、小テストなどを資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。
学習へのアドバイス	1 授業には集中して臨みましょう。その日のうちに復習をするとよいです。 2 問題集を活用し、知識の定着を図るとともに、定期考査に全力で取り組みましょう。 3 分からない点については、科目担当の先生に積極的に質問しましょう。

教科	保健体育	科目	体育	学年	2年(普通科、園芸クリエイト科)	単位数	2
教材	教科書	現代高等保健体育			出版社名	大修館書店	
	副教材	特になし					

学習の目標	1	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わいます。
	2	課題を発見し、その解決に向けて思考し判断する態度を育てます。
	3	公正、協力、責任、参画、一人一人の違いを大切にする資質や能力を育てます。

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1 学期	4月	1 体づくり運動	○ 南校体操、補強運動や集団走を正確に身に付けます。	中間 考查
	5月	2 陸上競技	○ 集団行動を通し、協力、責任、参画に対する意欲を高めます。	
	6月	3 球技Ⅰ	○ 体力を高め、自己の可能性に挑戦する楽しさを味わいます。	
	7月	4 体育理論	○ バレーボール、ソフトボール、卓球、テニスの中から選択して活動します。	
2 学期	8月	5 体づくり運動 ダンス	○ スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴を学びます。	中間 考查
	9月			
	10月	6 陸上競技	○ 運動会の集団演技の練習を行う中で、集団の中での協調性を養います。	
	11月	7 球技Ⅱ(その①)	○ 長距離走を行うことにより、体力を高め、自己の可能性に挑戦する楽しさを味わいます。	
3 学期	12月	8 体育理論	○ バスケットボール、サッカー、卓球、テニスの中から選択して活動します。	中間 考查
	1月	9 体づくり運動	○ スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴を学びます。	
	2月	10 球技Ⅱ(その②)	○ 集団行動を通して、計画的な実践、協力、責任などに対する意欲を高めます。	
	3月	11 体育理論	○ バスケットボール、サッカー、卓球、テニスの中から選択して活動します。	
			○ スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴を学びます。	学年末 考查

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	運動の合理的、計画的な実施を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能が身に付いている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決方法を思考・判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。

評価の方法	授業態度、出席点、スキルテスト、記録、定期考查の得点等日々の学習活動について、観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。
-------	---

学習へのアドバイス	1 「鍛」を目標に体力・気力の充実を図り、たくましく生きる力を身に付けていきましょう。 2 積極的に参加し、自主的に協調性をもって行動しましょう。 3 一人一人が健康と安全に留意して臨みましょう。
-----------	--

教科	保健体育	科目	保健	学年	2年(普通科、園芸クリエイト科)	単位数	1
教材	教科書	現代高等保健体育			出版社名	大修館書店	
	副教材	特になし					

学習の目標	1	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けます。
	2	課題を発見し、その解決に向けて思考し判断する態度を育てます。
	3	生涯を通じて自他の健康の保持増進を行うための資質や能力を育てます。

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1 学期	4月	3単元 生涯を通じる健康 1 ライフステージと健康	○ ライフステージと健康の関連について理解します。	中間 考査 期 末 考 査
	5月	2 思春期と健康 3 性意識と性行動の選択	○ 思春期の健康について理解します。 ○ 性意識の男女差、性情報が性行動の選択に影響することについて理解します。	
	6月	4 妊娠・出産と健康	○ 妊娠・出産の健康課題について理解します。	
	7月	5 避妊法と人工妊娠中絶 6 結婚生活と健康 7 中高年期と健康	○ 家族計画の意義について理解します。 ○ 健康的な結婚生活について理解します。 ○ 中高年期の健康について理解します。	
	8月	8 働くことと健康	○ 労働者の健康課題について理解します。	
	9月	9 労働災害と健康 10 健康的な職業生活	○ 労働災害について理解します。 ○ 余暇の重要性について理解します。	
	10月	4単元 健康を支える環境づくり 1 大気汚染と健康	○ 大気汚染の問題について理解します。	
2 学期	11月	2 水質汚濁、土壌汚染と健康	○ 水質汚濁、土壌汚染について理解します。	中間 考査 期 末 考 査
	12月	3 環境と健康にかかわる対策 4 ごみの処理と上下水道の整備	○ 環境汚染について理解します。 ○ ごみ処理の現状について理解します。	
	1月	5 食品の安全性 6 食品衛生にかかわる活動	○ 食品の安全性について理解します。 ○ 食品衛生について理解します。	
	2月	7 保健サービスとその活用 8 医療サービスとその活用 9 医療品の制度とその活用	○ 保健行政について理解します。 ○ 医療サービスについて理解します。 ○ 医薬品の制度について理解します。	
	3月	10 ささまざまな保健活動や社会対策 11 健康に関する環境づくりと社会参加	○ 様々な保健活動や社会対策について理解します。 ○ 健康の保持増進のための環境づくりについて理解します。	
	3 学期	1月	7 保健サービスとその活用 8 医療サービスとその活用 9 医療品の制度とその活用	
2月	10 ささまざまな保健活動や社会対策	○ 様々な保健活動や社会対策について理解します。		
3月	11 健康に関する環境づくりと社会参加	○ 健康の保持増進のための環境づくりについて理解します。		

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。
評価の方法	定期考査の得点に加えて、課題学習、授業態度、小テスト等日々の学習活動について、観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。		
学習へのアドバイス	1 授業で学習した内容を積極的に日常生活に取り入れるように心掛けましょう。 2 保健や健康についての新聞やニュースに気を配り、日頃から健康について関心を持つようにしましょう。		

令和5年度 愛媛県立今治南高等学校 シラバス

教科	外国語	科目	英語コミュニケーションⅡ	学年	2年(普通科)	単位数	4
教材	教科書	All Aboard! English Communication II			出版社名	東京書籍	
	副教材	WORD-MASTER ワードマイスター 英単語・熟語 1700 (第一学習社) チャート式 BIG DIPPER ビッグ・ディッパー 高校英語 (数研出版)					

学習の目標	<p>1 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養います。</p> <p>2 物語や説明文などを読んで、情報や書き手の考えなどを的確に理解する力を伸ばします。</p> <p>3 基本的な語句や文を使って話したり、書いたりして、英語を用いて伝える力を伸ばします。</p>
-------	---

	教材内容(単元)	学習計画・内容	考査計画
1学期	4月 Lesson 1 A Colorful Island	○ イタリアのプラーノ島への旅行を報告するSNSを通して、島の特色について学習します。	中間考査 期末考査
	5月 Lesson 2 With the Beatles	○ ラジオ番組の聴取者とディスクジョッキーの対話を通して、世代を超えて人気のあるバンドについて学習します。	
	6月 Lesson 3 Wild Men	○ 「ワイルドマン」についてのスピーチを通して、人間社会と自然について考えます。	
	7月 Lesson 4 Little Hero	○ ハチドリのお話を通して、不断の努力と不屈の心について考えます。	
2学期	8月 Lesson 5 Special Makeup in Kabuki	○ 日本の伝統文化である歌舞伎と隈取について学習します。	中間考査 期末考査
	9月 Lesson 6 Seeds for Future Generations	○ 海外の高校生に向けた、伝統野菜についてのグループ発表を通して、伝統の継続について考えます。	
	10月 Lesson 7 Over the Wall	○ 世界中で壁画を描く活動についての話を通して、世界の人々と交流する方法について学習します。	
	11月 Lesson 8 Inspiration from Nature	○ 生物模倣についてのオンライン講演の授業を通して、自然界のデザインをヒントに開発された製品について学習します。	
3学期	1月 Lesson 9 The Bitter Truth behind Chocolate	○ チョコレートをめぐる現実を取り上げた雑誌記事を通して、カカオ農園の実態	学年末考査
	2月 Lesson 10 Fighting Angel	○ 医療と看護の発展に一生を捧げたナイチンゲールの生涯について学習します。	
	3月 Reading Bear's Pie	○ 「ある小さな店を営む夫婦には、10年前に家を出た息子がいた」という朗読劇の結末を考えて、それを朗読しま	

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 日常的话题や社会的な話題について書かれた文の内容を捉える技能を身に付けている。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して表現する技能を身に付けている。	日常的话题や社会的な話題について、必要な情報を読み取ったり聞き取ったりして、書き手や話し手の意図や概要、要点を捉えている。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して伝えている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手、読み手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて表現し、コミュニケーションを図ろうとしている。

評価の方法	定期考査の得点と、授業における各活動や課題等を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は各学期の成績を基に算出します。
-------	---

学習へのアドバイス	<p>1 予習・授業・復習のサイクルを大切に、積極的に英語を使うことに努めましょう。</p> <p>2 アクセントやイントネーションに気を付け、繰り返し発音・音読練習を行いましょう。</p> <p>3 文法事項や重要表現を理解し、英語で表現する練習をしまししょう。</p>
-----------	--

教科	外国語	科目	論理・表現Ⅱ	学年	2年(普通科 探究類型、教養類型)	単位数	2
教材	教科書	APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSION Ⅱ		出版社名	開隆堂		
	副教材	チャート式 BIG DIPPER ビック・ディッパー 高校英語(数研出版)					

学習の目標	1 英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成します。 2 事実や意見などを多様な観点から考察し、読み手や目的に応じて簡潔に書く力を育成します。 3 学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめて発表する力を育成します。
-------	--

	教材内容(単元)	学習計画・内容	考査計画
1学期	4月 Lesson 1 Reflections Before Starting a New Life	○現在と過去を表す表現、昨年頑張ったことや今年の目標を発表します。	中間考査 期末考査
	5月 Lesson 2 Let Your Dreams Come True	○未来を表す表現、自分の夢を発表します。	
	6月 Lesson 3 Dos and Don'ts in Social Media	○助動詞、SNSの使い方をグループで話し合い、発表します。	
	Lesson 4 Future Prospects	○完了形、自分が予想する未来の社会について発表します。	
	7月 Lesson 5 Let's Keep in Good Shape	○受動態、健康のために自分が習慣にしたい行動を発表します。	
2学期	8月 Lesson 6 Energy Consumptions in the World	○比較①、世界の国々のエネルギーについてグループで発表します。	中間考査 期末考査
	9月 Lesson 7 Voter Turnout in Comparison	○比較②、日本の投票率の問題点と解決方法についてグループで話し合います。	
	10月 Lesson 8 What Has Impressed Me the Most	○動名詞、自分が感銘を受けた作品を紹介するポスターを作ります。	
	Lesson 9 Sports for Everybody	○to不定詞、「だれもが一緒に楽しめるスポーツ」をグループで考え、発表します。	
	11月 Lesson 10 The Latest News from around the World	○分詞、ペアで興味のあるニュースについて調べ、ニュース番組にして発表します。	
12月 Lesson 11 Let's Find Out What We Can Do for Others	○関係詞①、ボランティアを募集する広告を作ります。		
3学期	1月 Lesson 12 Learn about Other Countries and People	○関係詞②、移住したい国についてのクイズを作り、発表します。	学年末考査
	2月 Lesson 13 Global Issues	○仮定法、環境問題や社会問題の解決方法について、自分のアイデアを発表します。	
	3月 Lesson 14 Food Culture around the World	○特殊構文、興味のある国の食文化についてグループで調べ、発表します。	

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	外国語の音声や語彙、表現、文法言語の働きなどについて理解を深めている。 外国語の音声や語彙、表現、文法言語の働きなどの知識を、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報を整理しながら、外国語で適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手に配慮しながら主体的、自律的に外国語を用いて表現活動を行おうとしている。

評価の方法	定期考査の得点と、授業における各活動や課題等を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。
学習へのアドバイス	1 予習・授業・復習のサイクルを大切に、積極的に英語を使うことに努めましょう。 2 アクセントやイントネーションに気を付け、繰り返し発音・音読練習を行いましょう。 3 文法事項や重要表現を理解し、英語で表現する練習をしまししょう。